攝津名所圖會

河邊郡六下

貴重書
291.6309
Ak
8

0439

攝津名所圖會

河邊郡六下

貴重書
291.6309
Ak
8

武庫川女子大学図書館
291.1309
Ak
117094
8

屏風巖

春ち花
秋いろみちと
かくるゝ
屏風の岩九
名画之ゝり

湖夕

大舟山 波豆川村の上方にあり二峰孤立す嶮しく樹木繁茂す

大舟寺 月村の中にあり開基は日羅なり本尊大悲の像と安置仏初は大舟山の南にあり慶長十二町古礎十二基今に存せり中比荒廃部は原村に遷し頃年再び村中に旧跡に立てむ世に舟寺と

素

然寺は法華山と称す叡山帆山めみて濃を為す

後頼

高賀布神社 高尾谷坂井村にあり延喜式出今惣社明神と称す比谷中の

馬蹄七ッ岩 桜井の界柳原村の路傍に七箇所あり双方行き来の駒の蹄

壺蘆石 王瀬村にあり方一丈許其文采壺蘆を畫くがごとし

蓮華寺 瓔瀬村にあり保谷山と号す 真言宗

本尊弥陀三尊 表日仏作 寶塔 釈尊安置 樓門 金剛力士安置

当寺初は法道仙人大化年中の創建中興は慈心房尊意郡内信越寺と共に当院は勅願所其時一夕霊夢あり本尊龍王宮より来る法華一乗の御供養の導師小僧ありて其夜修し授戒其利小異土より受持の法花経一部水晶念珠両界の曼陀羅成得当山を感じ真府僧侶の法華経に帝代の寶器豊太閤秀吉公所上覧の後仏殿鐘楼を賜ふ又東福禅寺北殿司の画とする所の十六羅漢の像あり各別順へ

滿願寺

彩古今
紫の雲宿小
けさく琴の口小
うた世式
巖の松風
寂蓮法師

百枝ちり
足利若

西明寺飛泉
拾遺
年を経て
源山かくれの時る
きく人もあれ
あとのをかく
安方彩画

神秀山滿願寺千手院 多田院の西南にあり 真言宗 昔赤盛鳥墓

金堂 無量壽佛 開山勝道上人の作 常行堂 藥師佛 の作

聖武帝神亀元年三月下旬北嶽山の麓 勝道上人の作 基菩薩

観音堂十一面観世音 の作 上人荒木井口冨田口佐俣川の上に瑞光あり 地人其光所に至るに異香

坂本等の氏士共に仏像を刻し 相共に其光所に至るに異香

薫じ 其の窟あり 之れを仏像一軀を得 数上

に至る 各礼拝して千手大悲の尊像 六士 敬奉して

仏像を負て 郡内坂根村に安置 此小勝道上人 新に

尚寺を叫創し 彼大悲の像を安置

遷し 滿願寺開祖と為す

釋迦堂 弘法大師の作 鎮守 牛頭天王 護法若神

釋尊を安置 三寶荒神

義文丸塔 本堂の後 華嚴丸塔 日 上 仲光塔 日 上

多田源氏一門塔 伊豆国国房 下野国明国 出羽守光国 国房の嫡男 頼国の嫡子 頼国の長男 下総守仲政 頼国次男

山縣三郎国直 頼国三男 摂津国行国 多田大郎明国 多田大郎明国

左衛太夫藏人国基 国直長男

法華塔 観音堂の後にあり 八幡太郎六代孫足利尾張守家氏の祖母 殺法尼妙石

弥陀仏 塔之乾元元年建 塔前に石碑あり 寛文八年造立

二王門 古墳 尚山の 鐘楼 院中にあり 寶藏 義文丸着初の 澄太刀 什宝

入口にあり 其外萬寿寿永の 什宝

国宝 慶宣 将軍家の願文

若勝の者 妙法蔵む

妙蓮華経 日

文山にあり むし 勝道法師の開闢 上人 若田氏 下野国芳賀

郡の産 妙年 俗塵 出家 勝寿 鎮作 聖武帝神亀

元年に滿願寺 創 乃千手観音 安置 勤修精進 大

四衆を利 其霊應響の如 祈願滿 故に弥

滿願寺と 時の人滿願上人と 洗 本州 還

日光山に登 精藍を創 厥后 弟崔帝 延平年中 摂津守源

滿仲公 多田城を構 居 其時尚山の霊區を崇 国家 冥福

を延 寺を帰依 滿仲 子に義文丸 恵心僧都

に投 賢を薙受戒 圓貫と号 后に孫賢 錫を授 て

居 尚山二世 開祖 道化益盛 武藏 司平 時 層

寶塔 建 乃八條 狭 司の主人阿弥陀 尊 塔中 奉 又

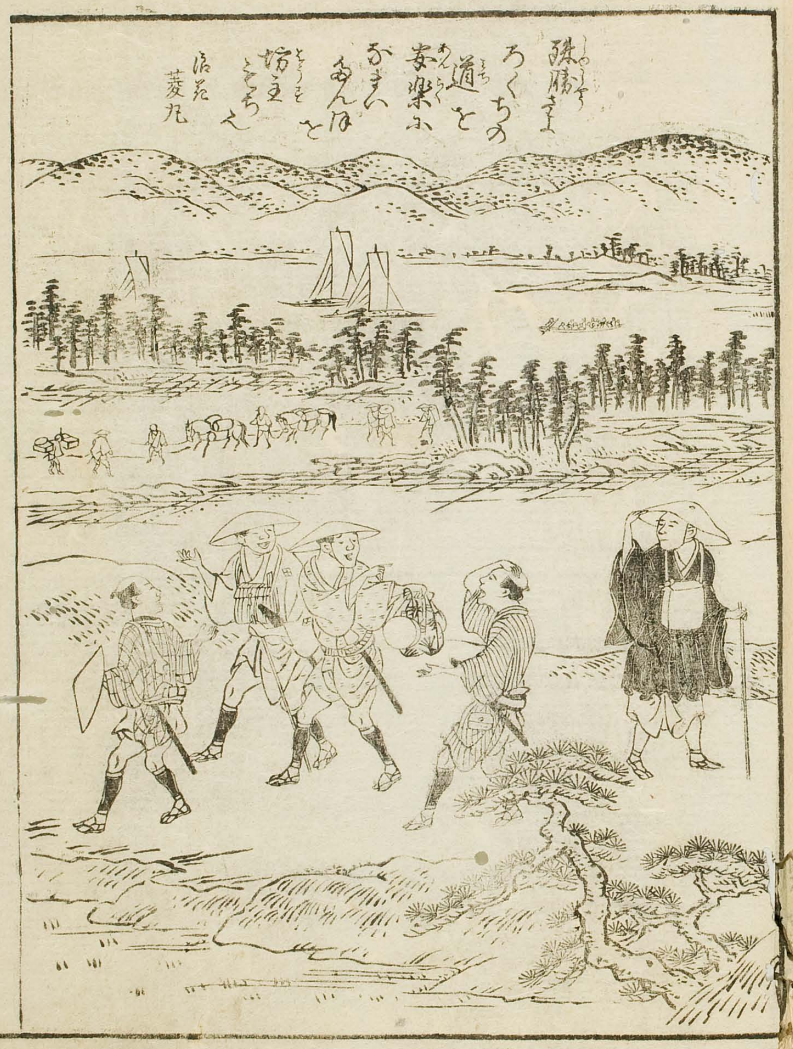
建 二年最勝園寺 時 楼門 立 金剛 力士 安 法華堂

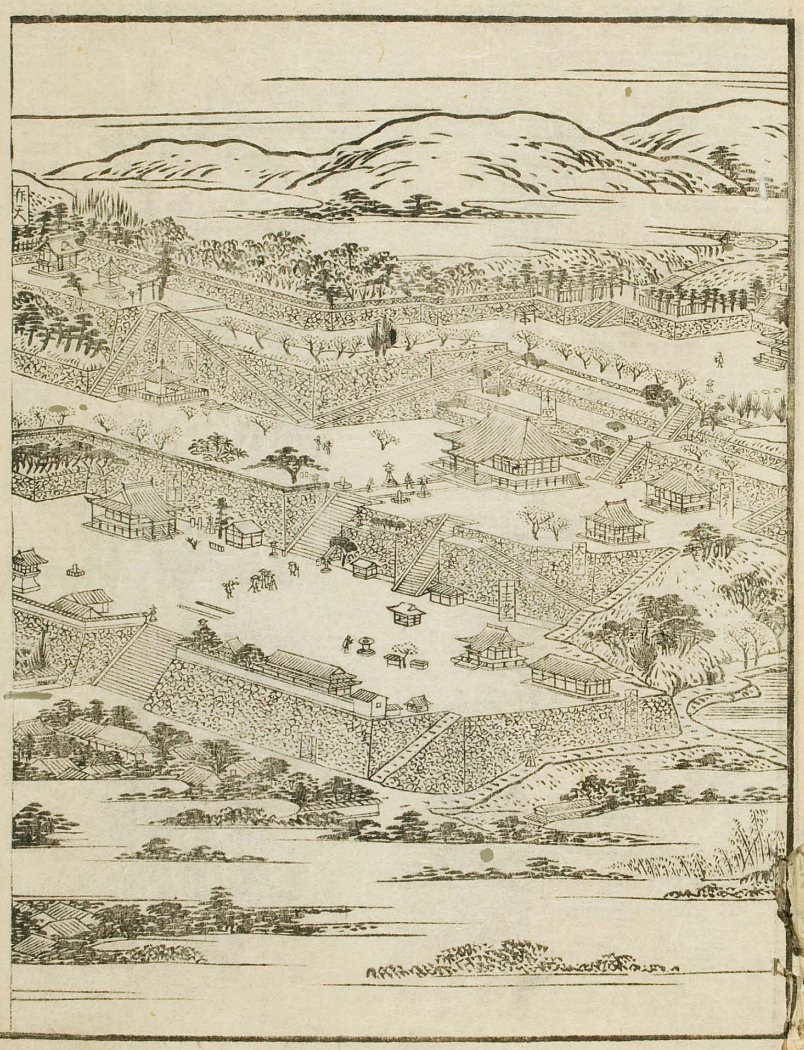
あり 賢人士の像 安 奉 弥陀仏 大殿 置 奥院あり 千手

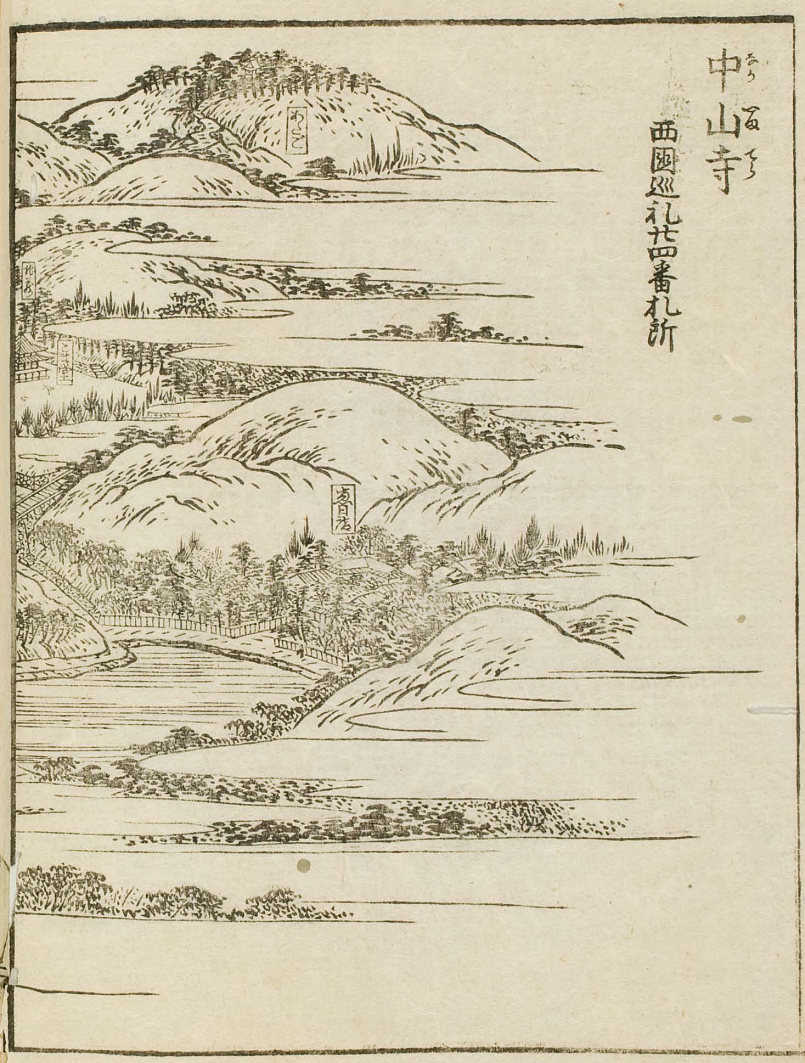
大悲の像を安置し常行堂を無量寿仏を置其外経蔵鐘楼食堂
浴室有て實に大伽藍なり其後　後醍醐帝正中二年大谷彦五二郎
法親王奏して官寺とし給ひ於是念光耀と号し文武百僚車駕門に墳
し各私田を捧て香積を資く故に男女喜甲禮謁をなすの市の如し
後北融氏の爲に廢せられて皆煨燼となる唯奥の一院のみ存し慶安
年間に至て寺僧諸の檀信を募て復古を興し寺の南に瀑布あり
最明寺と号て古仏あり古寺あり故に名に冠す
西明寺瀧　瀧頭寺西領北に寺あり神八所新に有り高五丈若小僧滝
入道頼を巡検の時偶此地に来り給ひ瀧屋に宿し故に名付る
水源王瀬より流る傍に巨巖多し溪水潺湲として頗れ危に傍て
若干丈めぐる甚る岩巖岩躑躅かと咲き乱れ風糸斜あり
伊丹　瀧の上に有り岩上に大の足形を彫長さ八寸巾又寸計傍に
足形石　の如あり俗伝云最明寺入道此に錫杖を入れ東に
東方石面方石あり善薩頭と云ふ歩と云ふ
千歩の平面に如方也と云ふ名とし又金剛窟龍女洞盤陀石又士橋あり
いへ名蹟みな
此あり

平居山権現寺旧蹟　平井村の聖中に有り むかし伽藍ありて寺産
の地蔵田釈迦堂一宇遺り天正年中瀧頭寺より
また其後荒本坊ほさ放火しく又煨燼となる右四ヶ所田畑
今に字に残る
旧跡のみ遺まり
四氏舊屋　日村に有り 部潮 平井田中 坂本 尾崎の四氏あり
田原氏　後川伯耆守の家人あり平井氏は丹後
平井　保昌の部孫と世に
保昌殿
雲雀瀧　寺田村山中にあり
西明寺瀧の北上
仲光家　日村にあり 仲光の家臣藤原仲光
其古墳あり土俗呼て藤原塚と
山本若左衛門旧屋　日村にあり 者名豊の屋造り 石垣 樹本 繞
洞屋西湖の風景に方に縁て山水の法式を潔
仏法と浮
木樵若左衛門旧屋　日村にあり 者諸本 樵本 樹本 樵
枝葉繁て東西に秀古公に威し 木樵太郎と呼し 今に至
ても其林と称し樵木を多くし 諸国へ賈
行基抛岩　日村にあり 行基 辺 遊 の附大岩 道 落 樵
助 抛除 故に名とす
又洗　日村にあり土人 堀穴 と云
度 百 経 山本窟　日村にあり土人 堀穴 と云 ひとし 火の雨除し 附

遠近の花匂ひ緑生の比
中山寺金剛綱ふ寺ゝん
とゝく十三のワゝとゝく
うらゝある道芝ふげんげ
もゝれ芽ゝ花を搖ふそろ
やゝろゝするもゝ春色の風れ
ゝゝ中あゝべし



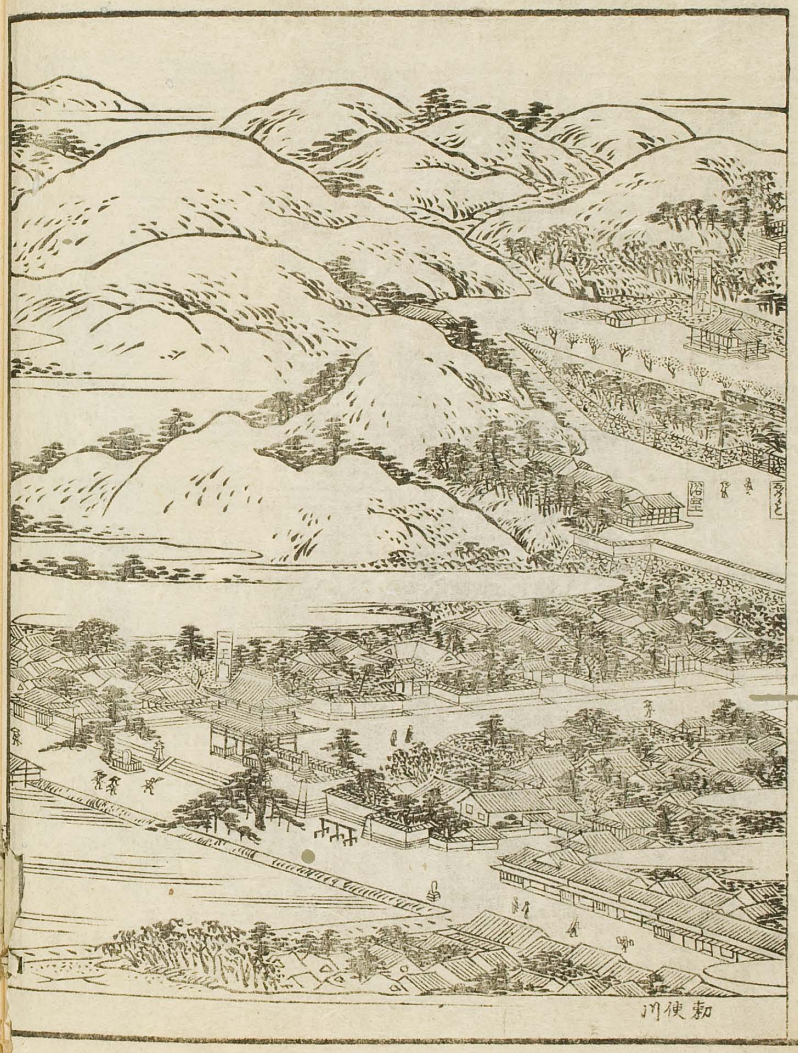




中山寺

西國巡礼廿四番札所

中山寺門お


勅使門

中山寺奥院

京琴

山田もり
秋のうらぶふ
さく蕨へ
茅おほを
香の
陰へ
ゆり

志琴

紫雲山中山寺 中山ふあり 古い山 嶺ふあり 天正年中以後ちに遷次 古義真言宗 僧舎五坊

冬寒ミ猪名の中山紅葉かな 道經

本尊十一面観世音 丈六金堂ふ安置 中尊ハ聖徳太子 弟世合帯國に 生れ給ひ 一鶴毎ふ三禮しく 仏ハ 尊容好り 長五尺 計 左運慶の作 右源慶の作 各長三尺五寸 西國巡禮 第 廿四番 毎年三月中旬 八月中旬 奉修 七月 五日 五日 修

薬師堂 金堂の西ふあり 惣心僧都 地蔵堂 金堂の東ふあり 義覺大師の作 弘法大師の作 長四尺 計

太子堂 地蔵堂の東ふあり 上宮太子 十六歳御自作の 多聞天安置 弘法大師の作 又自知 多聞天安置

十王堂 冥府十王 以安置 舎堂 下座の西の方ふあり 五百羅漢像 以安置 俗ふ石庵樓と云

弁財天祠 上座西の方ふあり 白鳥窟 下座の西の方ふあり 忍然王廟 王子窟 ふ出現 護摩堂 上座ふあり 愛宕社 山上四町計ふあり

鐘楼 下座ふあり 札納所 下座鐘堂の東ふあり 二王門 内外 金剛力士二王 以安置 駄大二軀を置

惠日菴 下座の東一町計ふあり 不動尊 以安置 弘法大師の作 長弐尺 山居室 智龍和尚の開基 幽棲閑寂の地 山岳 密法修 の所 奥院 本堂より山上ふあり 坂路の半ふト郷 左迫墓あり 播州 本社 忍然王 疫神 ふ中座の 三座 以祭祀

日本紀曰 仲哀天皇二年春正月甲寅朔甲子立氣長足姫尊為皇后 神功 先是り

娶叔父彦人大兄之女大中姫為妃生麛坂皇子 忍熊皇子

大悲水 本社の右ふあり 山の名水 掬 疫を除く 爪形天神 奥院の北路 十七町目ふあり

駒蹄石 奥院 一町半山上ふあり 聖徳王 駒ふ踏 岩上ふ立 岩 区と隔 所 今ふ蹄の跡 多 ふあり

疱瘡神 本社の傍ふあり 疫神 以 鬼 丈婦石 奥院の坂路十一町目ふあり 巨岩 唯 双 上ふ松樹 疫の

小隠岩 山良十八町ふあり 頂嶺 本都婆 仏 太子 仏舎利 疫 十方を結界しく 魔障 以除 伏しゆ 寺屋 壺 鬼 堂 本都婆 以 現 以 文官

獨鈷尾別所院旧迹 山ふあり 宇多帝の勅願所 祈禱 愛染堂 護摩堂 仏院 造立しゆ 其後 備仲公 祈願所 と 源頼朝公 再興 寺 菴 八十 町の田園 義文丸學文所 山中之坊 上宮太子 勅使川 山ふあり 駒足洗川 山の西ふあり 上宮太子 駒の足 以

丈山ハ郡内第一の名勝 香墓青漢ふ接 鐘聲白雲に和 往来 山中ふ櫻樹多 風糸 繋く 弥生の花盛ふ登臨 されば帰路 忘る 嶺ふ至 花 海西宮の浦々遠ふ見 沖の

船ちいさく櫟の小田を綾織のぬく鮮あざやかに風光斜形うつぶし作
嵩山を　仲哀天皇の皇妃大中姫麗じゐて後猪名の山辺大窠
谷に葬まる昂今の堂舎の地みづから古の下院と山皇妃の生ませ
王子成麗坂王忍熊王とやまる　神功皇后に敬しまつりて忍滅し
ましく宮の麗坂に六甲山に葬し貴の忍熊に宇治の川瀬に身を沉め
しを難波浦に流れ重湍崇成かしこく村民を悩ます是年
天聽に達し八祖連をしく皇母の側に藏しる　應仁天皇素紀をして
勅使を遣されたまふ勅使川とて名あり忍熊の宿を開化天皇に
忽白鳥と化しく岩間より重湍に浦出る則ち大中姫忍熊王の二
神を崇めしに名を大悲水と称ぜまつる掬をる者厄難病苦を免る
あり厥后　聖德太子四天王寺を創るに付逆臣守屋大連を麗と
成仲道を陣畧に太子まづ成三寶に祈願まつりに忽迫を大人新向
しく若て日難波浦より小方に嵩りく紫雲靉靆る霊場あり
太子訪くに山に登り紫雲を尋く山驛より梵刹の功成く百濟
恵聽恵便の二僧成延くあに處しむ山の麓に川あり名を子駒と
流に故に名とせり書老二年和州長谷寺德道上人暴に往生しく
閻魔王宮に至る閻王曰閻浮日域に三十三所の觀音乃霊場あり
一度其地を踏りの悪業に隨ぜ郷本土に還しく人民を勧て巡禮かさ
しむ爲に昂寶を賜に德道院に甦しく寶を立石函に入て山に
藏むまとりて人を勧く弘通しく礼を信従せるの勝に其後二百年を
経て慶に御に人に石川の寺僧仲眼上人巡禮の功德成念
しく特に　華山法皇に奏次其頃書寫山の性空上人養に玻麗宮
より清しく法華を誦に性空曰末世の衆生多く濁悪に深む行れの法
を以て救はんや閻王曰獨に德道上人に囑しく巡禮願者の事
成若に性空義賞て昂奏次　法皇二僧の言成感し寶を成敬境
あり性空仲眼と共に霊迹を巡ぶ又其後　後白川院も亦

まことに巡禮し給ふ國人まれに效く今日至るまで絶ざるあり是より先
釋慈信上人當山の本尊に啓し給ふ仏告報あるに來元亨釋書に
詳に當山を鉢峰と云ふ其中間あれを中山寺と號く或は極樂國
土の東門中心に相當ふ沙石名材多し又和州に稱名の中山と號す
古き殿堂巍然として今の奥院の山嶺にあり伽藍八十院に及ん
天正の兵火に罹てみな煨燼となる其后今の地下院に遷し豊臣
秀頼公始て帳に帥建營し給へり

蓬萊山清澄寺 深谷村の山中にあり中山の奥院より十町許西南にあり 坂路嶮し 古義真言宗

弘法大師の旧上古に東の山上にあり伽藍壯麗僧舍七十二坊今旧地に古礎多く遺る

本尊大日如來

荒神社 上院の北にあり益信僧正の旧長武大阿須波明神ともいふ 又清荒神ともいふ

加持水 本堂の後にあり益信上人感得の霊泉

糸櫻 花の盛なり幽邃なり

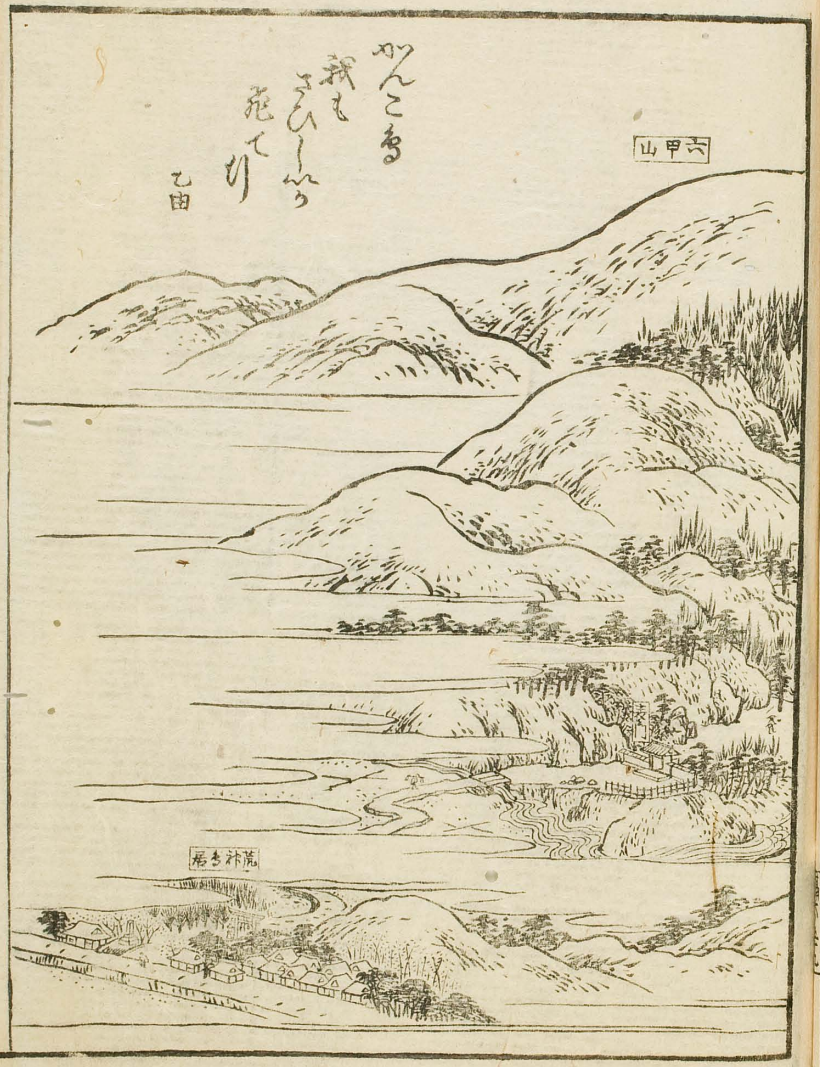
影向榊 本堂の巽にあり二寶荒神此本に影向し給へり

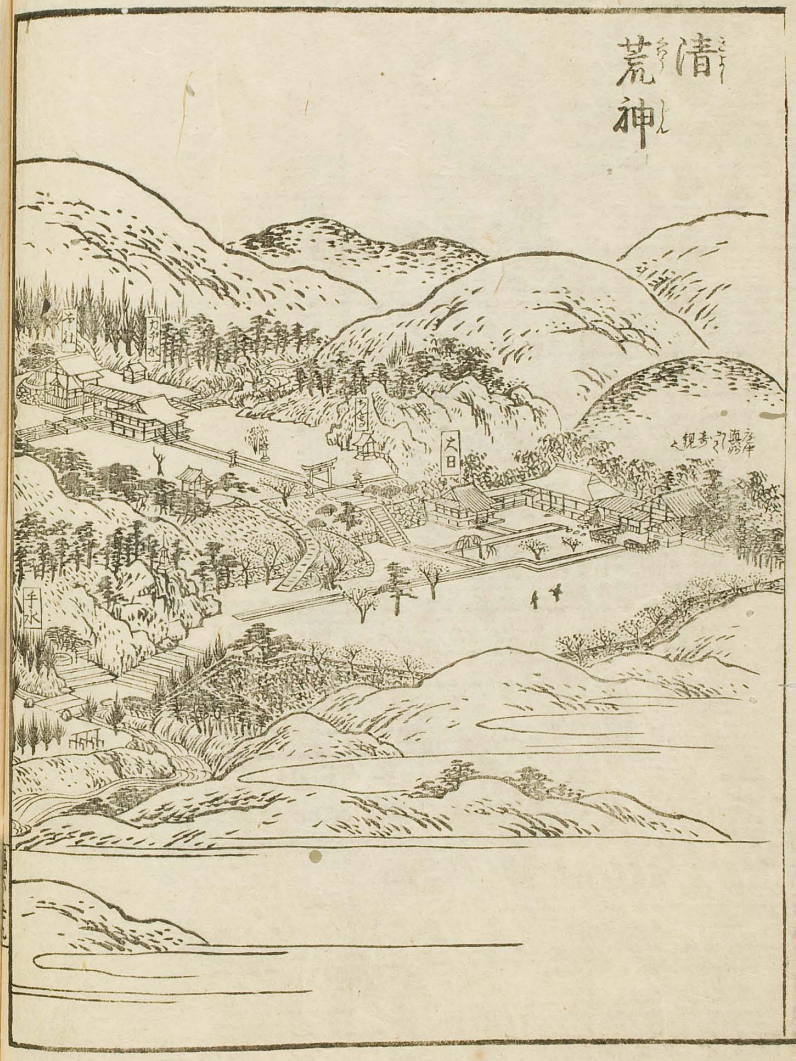
やれはしの枕園寂寞として霊場なり 寛平五年の造

宇多天皇皇后と倶に同姦し給ふ聖僧の崇奉し奏して曰攝州の
蓬萊山といふ霊岳あり四面是釋迦弥陀弥勒の三仏の澤潤を
蒙て安堵し給へり天下清平人民豊饒なりとて昔陀華の香本仏
献ずるに爰賞ありて龍顔大に歡喜有て其地に精藍を創し昇其霊
本仏なり仏工定圓法眼に命じて二尊を造らしめられて本尊とし
僧正遍昭僧正益信の二僧仏延に開祖として台密の法を修し國家安泰
を祈らしめ其刹二寶荒神堂鎮の榊に影向し仏道守護の鎮守
となる又現を図慈禹谷七嶺七溪の精地に勸請し修法嚴密
なり又異香芬々として霊威新なり故に清荒神
と崇奉なり中興慈心房尊恵上人を基叡嶽の學徒た
ちに多年法筵の持者に対に止錫し給へり 高倉院
第安二年十二月廿二日閻羅王法筵十万部融通本願金仏修
し尊恵上人を請じ給へり慶讃導師とし次其時閻王に書金

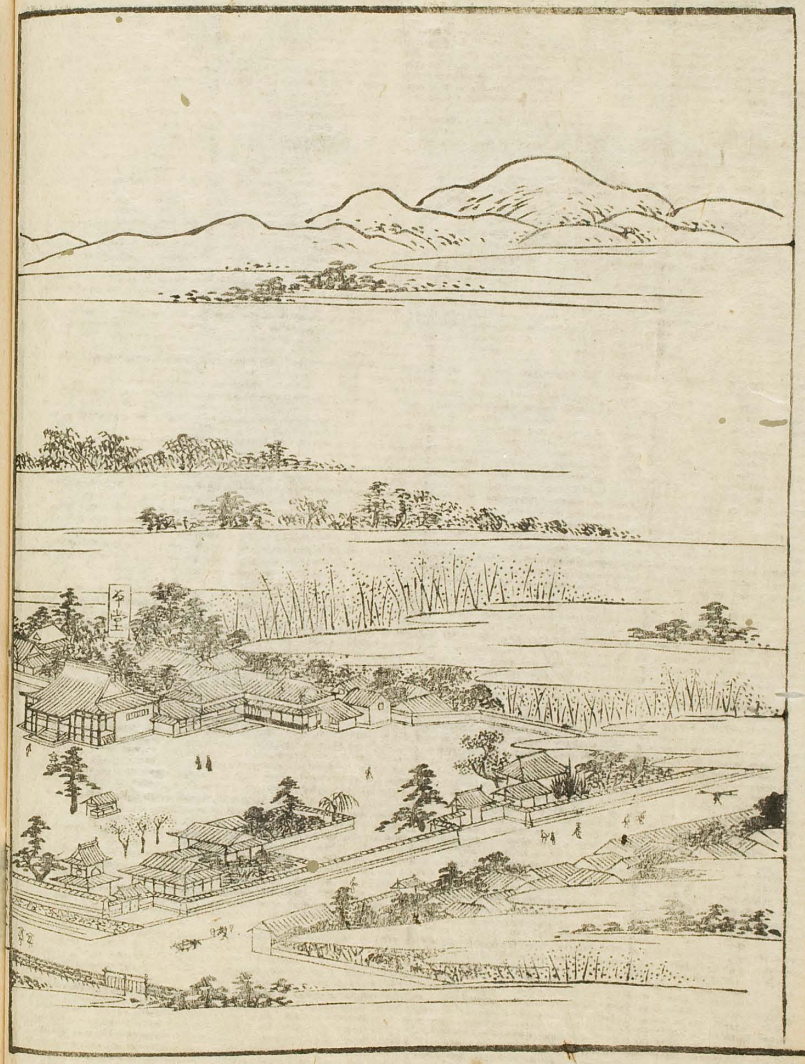
宗の妙經あまた所嘱〳〵曰大日本國三十七所の淨刹なり
清澄寺其一院なり若し此經今ふ当山の什宝なり故古き
東の山嶺わ〳〵く伽藍叢立うり寿永二年源平の寇火ふ罹く
諸堂灰燼となる厨后將軍右大將頼朝公尊像の霊験を聞て
上ふ奏〳〵勅を奉て復あまた所再興に方是山川色を増昔ふ復る
又其後大室上人ふ来ると止住〳〵苦修精進〳〵く利濟所勤ふ
年凡く二十年或る王を提を達く龍華三會を期ふそれより
鎮守荒神の霊應著〳〵く萬若融通の人民所擁護〳〵
ゆふふるり法晴と云ふ俗人間断わ〳〵 当ち方丈の庭中真妙ふ
〳〵く瀧の糸叢所懸ひ
花木ハ四時ふ〳〵く盧山の
糸地と紛く風色斜なり〳〵
貴布神社 ふ貴布禰明神と延喜式出ひ和の生土神なり
今村ふ谷村ふ
寶家 内村ふ福徳所得るとく物所拾人附ふかるべ
不附ふ福徳所得るとく物所拾人附ふかるべ
川面神祠 川面村ふ山地の生土神ふ
水流大王と紙ひ

小濱驛 昆陽莊都會の地ふ町名七属邑四交易の商人多〳〵
豊太閤有馬入陽の附藩館と〳〵ゆふ故家今ふ有り
奥村正信旧屋 小濱ふ有り傳云むか〳〵ハ今の米谷村と小濱と
中奥村就後正信が兄貴弟ふ八尾何基毫攝寺若秀房
明應年
等ひ地を代平げ初く庄内所所〳〵ひ今の小濱と為るり
奥村ふ旧屋市店に有く菊屋と呼ぶ
八尾福村二氏旧屋 小濱ふ有り奥村正信ふ弟福村氏今奴利屋と
八尾の苗孫も亦壺屋と号ひ文祿年中濱井長政
ひ所を撥地〳〵く奥村福村八尾の
二人と小濱庄司と〳〵くり
慈雲院 小濱ふ有り寺記云奥村正信ふ玄孫正利と〳〵く者多病ふ〳〵く
中心の親者ふ正念所祷ま〳〵ふ或日金洞長久すの大悲の像を
感得ひ国是州室をつくるひ所を新
安〳〵慈雲院と号〳〵〳〵
法仙寺 小濱ふ有り薄士宗
京師和恩院の末派之
本尊阿弥陀佛 高日の作立像長二尺角基る沙門法仏ふ有り
茅宇所むとひく合掌〳〵く仏号所付ひ爰念仏と俗ひ衣所の
壁ふむりひ合掌〳〵く仏号所付ひ爰念仏と俗ひ衣所の
阿弥陀如来来迎〳〵く 法仏ひ所有多の地と云絵〳〵く已に明旦
鉦〳〵ひ 祇園異香〳〵〳〵 特のおをひ所ふ所ふ和州
南都〳〵き人の客僧仏像所貫来り法仏に與ふ
見まき〳〵く爰の中の若容ふ〳〵く高日の祇作と〳〵
一宇所営建〳〵く
法仙寺と弥陀


かんこう
神も
さびしんの
花てり
乙由
六甲山
荒神寺


清荒神
大日
千水

小濱
亀攝寺
八幡松
友則



出雲路山毫攝寺　小淵ふめり、浄土真宗

西本願寺ノ末寺ニ属シ

本尊阿弥陀佛　運慶の作立像

長弐尺八寸

宗祖親鸞聖人影　聖人自画遷化の後第三代覚如上人角山の骨灰を染め

和墨にて真影と塗り故に骨墨の影と称ス

上宮太子七高僧　本願寺第住上人彩　俱ニ脇掛ニ

安置

筆初本尊　覚如上人本願寺の本尊むかし六字の名号を画き角基

画く授與し給ふ故に真宗初の

本尊と賞ト云

当寺初め丹波国六人郡にありて天台の浄刹　後醍醐帝御宇

系師出雲路に遷し浅青菴と号ス是勅願にて彼　帝の宸翰

今に存在せり寺職素当坊本願寺覚如上人に帰依して真宗となり

昇覚の長男蔵秀丸出て止住し当寺第二世と成素当坊と

化益のたの紙茶国に新たに清水頭に一宇を建て毫摂寺と号ス

中ごろ兼帯所あり二ヶ当時に二門徒の其一寺にて一流の本寺と

なるそれより素当坊に大和丹波個馬等を巡りて仏寺を建立する事

多くみな門下に附属して今当寺の末流となる願后天正年中

本願寺顕如上人の代に当寺若秀坊八尾福村と俱に当境を領ジあり

今の如く建立し当時本願寺御門主の連枝来て寺務し給ふ

八本松　境内にあり近世寛延年中風早中納言公雄卿当院に内縁ある

小さ川に公卿十人の詠歌を勧進し給ふ賜ふ外題に浄法海

三條右大臣季時公筆詠歌黙斎に松盡の巻の好吟泉大納言為村卿

は国や小淵のさ小年ふかく生茂ふ第都の陰を床なる

やく法の教をはしめく年経める松の世なるたてらそ仏寺

八本あり小さ淵の中川はふる緑おく数いく世の春をつめくん

いくふしをさ世とはたせそ八本ニ川小淵の松や春を重ねらん

八本ニ川松もふしをの陰をえくに小さ淵の春に色ふかめ

生を長成おりの母えしまの寺は八本の松はいくふ世のかを

ふ年をもこの小淵ふしまるの八ヶ中の松は陰の本ときさ

陰をもく程生志をれ春の中川八ヶ中ふ世のい緑成ふら先ふ

ひけるに色をやれる都のかくと数ふ小さ淵の春小色を花絶らん

猶喜書日摂州小淵毫摂寺八振之古松詠歌十首巻一巻賜者神院住空大徳者也

ひたはめく八本の松はとの春をつくむを忘もふと也万代

見佐神祠　小淵の辺見佐の地に小ヶ山本の生土神なり

土人見狭明神と云

日本紀曰

天武天皇元年禮祭高市身狭二社之神

鴻池　鴻池村にあり廣サ三百畝一名畔池といふ鴻實ハ國府之土人此池岸に鴻多くあつまるゆへ此名あるよし

續日本紀曰仁明天皇承和十一年二月攝津國言依去天長二年正月承和二年十一月兩度勅旨定河邊郡爲奈野可遷建國府而今國弊民疲不堪發役望請停遷彼曠野以鴻臚館爲國府

慈眼寺　桜ヶ丘に國府祠國府城國府池等の舊蹟和の後に興るなるらん　鴻池村にあり仙國山と号す禪宗曹洞　池田大廣寺の末院也

本尊釋迦佛　安阿弥の作當寺初ハ仙園寺と号して修驗道にて赤松圓心の祈願所也其後真言宗の僧古跡宗ヲ又其後桂昌和尚重興して慈眼禅寺と改む　**鎮守八幡宮**　神像束帯弓箭を携て馬上の像躰を安す

扇野　荻野村の郊原をいふ此地に雨夜にふれむ必火出る扇野の火といふ火の論は下郡に記せり

小戸神社　小戸村にあり延喜式出小戸栄根小花等の生土神なり　土人小部天神と称す

安倉　池尻鴻出在家等安倉庄と云傳云聖徳太子中山寺創の時鞍を置給ひしを安んずる義によりて安鞍と号す今土俗安倉と書す

日本紀云孝德天皇白雉元年是歳漢山口直大口奉詔刻千佛像遣倭漢直縣白髮部連鐙難波吉士胡床於安藝國使造百濟舶二艘

觀音寺　安倉村にあり南中山文殊院と号す真言宗　聖徳太子の草創なり

本尊十一面觀音　太子の御作立像長三尺中山の觀音なる故人觀中山といふ太子鞍に騎り附鞍あるによりて臺址あんとそ此寺を創し此名も安鞍と名づけたまふ又佛殿に將軍地藏脇士金剛の二躰安置俱に安阿弥の作也

昆陽野　昆陽莊十四村あり寺本　池尻　新田　山田　時友　友行　西向　東富松　南富松　瑞池　千僧　大鹿　御願塚　昆陽等なり　郡くは舊名昆陽の庄といふ昆陽村は京師より山陽道の往還にして驛舍あり町名七屬邑四村昆陽の里昆陽の松原和歌に詠ず

續古
津國のこやの芦ふき曾なしそ隙おほくあれと人に告なや　光俊

新後拾
難波潟芦火の煙はしなやのそれともしるきこやの松原　等持院贈左大臣

夫木
立かへる道ある御代にあふみとや松かしこや生れ松虫の聲　家隆

同
おし照や難波の浦に見わたせば夕日かゝやくこやの松原　仲業

風雅
津國の井奈野の霧のたえ\/にあらはれ渡るこやの松原　彈正尹邦省親王

家集
住よしていさ居士の人にみせん世をすてつるこやの松原　家隆

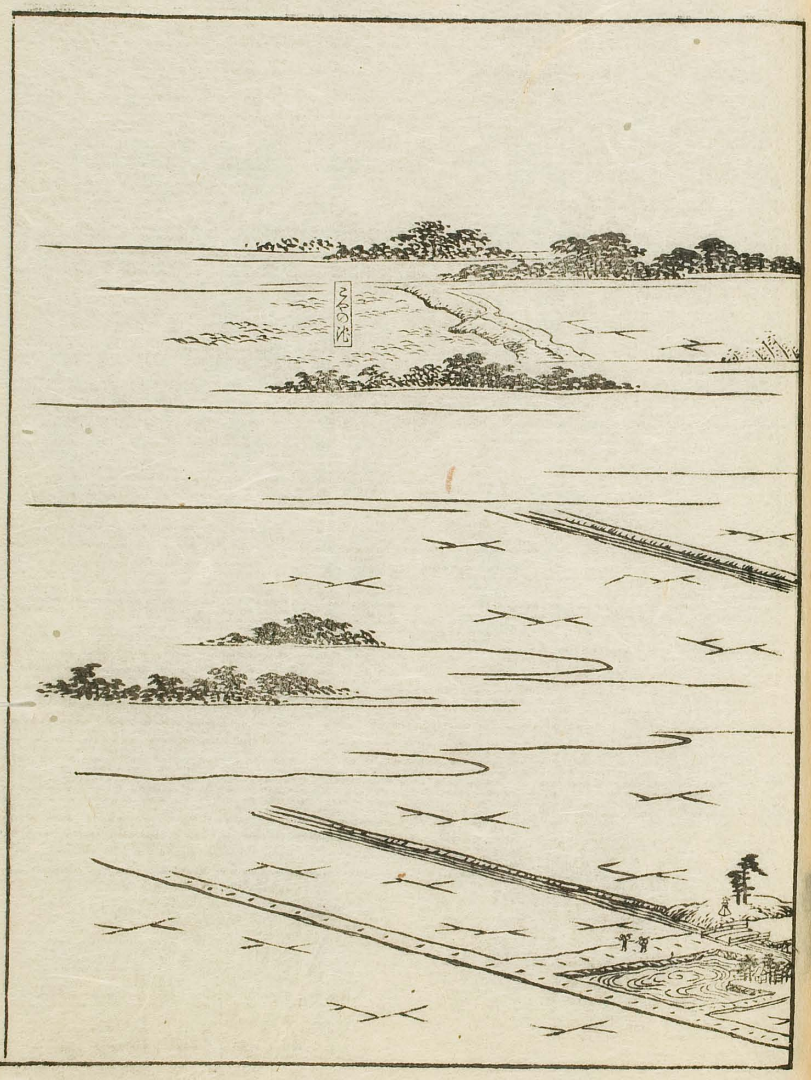
昆陽浦　**昆陽入江**　今かし昆陽庄いふ入江なしく西海に續き波海の船おくと往來に古所あり

夫木
津國のこやのうら風吹つれて芦の枯葉に秋を来なり　範光

同
落つもるこやの入江の芦の葉にかくれもそぼりのか　讀人しらず

五百羅漢
山岳
とのつゝ
きゝたる
みゝれて
玉をたかる
法をしる水
あり
大師堂
本堂
村本寺

昆陽寺
さくら木


昆陽池

昆陽寺
門前
刈基井
昆陽池

崑崙山昆陽寺

昆陽寺寺村ニあり　古義真言宗　僧舎六坊

去ぬるころ堂をこのて立めれい昆陽寺ぬるもの春見つる　後人詠

本尊藥師如来　本堂ニ安置　開山傳正の基の他長半丈六日光月光十二神將左右ニ安置　近年出現　黄金仏　薬師堂内脇壇　仲厨子の内ニ安置　開山堂　中央の基菩薩　左文殊　右維摩賢之脇士ニ持國多門　天を安置　共ニ傳正の基の他　桃木をもつて彫刻ニ額ニ　如意輪観音白寂照公　大日堂　中尊金剛界大日如来　左弥陀　右釋迦　脇仏の真筆　長三尺八寸許　又大師の畫蹟　四國八十八箇所の本尊ニ

観音堂　中尊十一面観音　左准胝観音　右馬頭観音　又西國廿三所の観音ニ　模し　堂内ニ安置

護摩堂　不動尊ニ安置　六條中納言藤原有房卿筆　弁財天社　堂の北の中島ニあり　桃木二株あり　基菩薩　容彫刻の観音ニ　歓喜天社　本堂の後ニあり　享保二年四月七日　出現の観音ニ安置

梵天王社　開山堂の西ニあり　金剛蓮子社　梵天王の後ニあり　鐘堂　北の南ニあり

黄金薬師出現所　本堂の西ニあり　享保二年四月五日ニ所より出現　歓喜天出現所　同所ニあり

開山塔　本堂の乾林中ニあり　二天門　本堂の南ニあり　内の方持國多門　天ニ安置　外の方金剛力士　二天を安置　内の中門を大門と　号して内外安置　額ニ崑崙山と

大門旧蹟　二王門の南北町許ニあり　今ハ松二千株許植る　傳云　聖武帝御宇天正之年　疱瘡異國

主水堂　大門の西北の東ニあり　日本ニ始て流行　帝懼れ給ひ　上ハ王侯下ハ庶民ニ至ル迄　疱瘡ニ病ひ　神通力を以て　傳正ハ　秘法の加持　已来諸民　疱瘡ニ病ひ　怒平癒ニ　疱瘡ニ免れ　者多し　今ニ至る　其霊験　昆陽池　昆陽ニ五町許ニあり　傳正の基　昆陽池の葦の葉ニ如くれく住し　津國のこもあるこもをこきふろ　添重之

主水堂の池水の流れ　傳都長候

去ぬるころ丹浮袖の涙や荒めくん氷柱ぬるるこもの池水　藤仲實

こもの池葦間の水ハ新きて氷とそふる冬ハ上乃月　権律師仏覚

津國のこもの葦ふた理て君ハ来ことにみえぬ人のかな　二京法親王覚助

九月雨ニ小蘆ふ乗ハ足波せ上なるか紫ニ浦くこもの池水　順徳院　天皇内侍

延喜式曰
故僧正行基混陽院雑事者攝津國司與別當僧共知
檢校云云　三代實録云　貞觀十八年三月三日是日山城國泉橋
寺申牒曰故僧正行基五畿境内建立四十九院
文尚古風茅屋殊猶古寺丹雘聲香蓋に響き清月
老松と照らしく滿地の落花雲寂々たり嘗て　聖武天皇
の御宇僧正行基國家鎮護衆生利益の為に猪名野に隙原に
點じ神亀の初に奏聞しく天平五年に開創し郡官貨に賜ひ
勅頒所々に寺院僧正の引率三十六客の氏族二十二縣に分處し
て庄司村主に地を墾田を開き院家に施入し昆陽庄と號け
其中央に伽藍を建く梵宇閣中に彩色畫を画裏に解脱しく
若盡し美を尽くせり半丈六の瑠璃光佛十一面観自在菩薩文
帝釋梵天像正の如く安置し奉り國家鎮平五穀豊饒
の祈禱を毎年七十二度の神事佛事に修し又院家乃

地を設く鰥寡孤獨聾盲瘖瘂癲者等の貧賤に與へ拯開山行基六
百海國王の御宇に高志氏郡州人名郡の人く　傳記に元亨釋書に出
出誕の地は和泉名所圖會に出ず　天智帝七年に孝れく南て十五年の間薩婆しく菩師寺に
入瑜伽唯識等の論を新羅の恵基に學ひ又義淵に從ひく智恵
證道に磨き二十四年に〳〵く奥足戒を德光法師に授け常に化
を事とせれ乃ち道俗の追隨る者百千に餘る其巡りの嶮所に
橋架し或は地を開く田園を指示し池渠を穿ちては堤川除を築き
見聞の人所みな功積を加へ故に州民今に至るまく其恩惠を蒙
まう狗王畿の内に精舍を營む凡て四十九院其未往の間昆陽
池の側に獨の病人に遇りし者り基に告て曰吾業病を受て此地に
適れ去とくも歩りに堪ざれて饑渴に入く食を乞て生命を飢を
凌ぐんとあり池に陽んぐ魚を取微命を繋ぎ侍りし基曰今ここに汝に
食を與へん殺生の業なかを半かれ則其肉を拾て放ちに脩して

樂々波を起く泳々今五一盲半赤身の魚山沈ふあり　聖武帝其
霊験を聞ひ工猴若干を賜ふく遂ひ大伽藍とある獅く崑崙山
昆陽寺と以て荘田一千五百石寺産く金塔玉閣堂々く
大小道化を振ふ四素の黒白帰作をる者市の必し時の人攝州美一
の名刹と賞ぜ情ち天正年間の冦火小羅く悉烟燼とある厳后
古刹の遺趾ふ[illegible]く今の必く堂宇を営く本尊及び開山乃
僧公安墨ぜ詳ひ古蹟の銘文ふ及へう

昆陽寺鐘銘

建立壹院敷地肆町
院家惣領空閑荒野　壹所
肆至東限伊丹阪南限笠池堤　大小池十二所
西限武庫川北限後通墓　在四至内
在攝津國河邊北条武庫東条
金堂壹宇　三間四面瓦葺面講堂一宇　五間四面檜皮葺
法華堂壹宇　常行堂一宇　塔一基　各五重
鐘楼一宇　経藏一宇　各瓦葺　高倉二宇
僧坊三宇　雑舎二宇　大門一宇
奉安置十一面観自在尊霊像　薬師瑠璃光佛　半丈六像
梵天帝釋像　各一軀

各僧正自作
寶具大幡小幡十二流　菩薩禮拜石一面廣一尺厚三寸
大臣之知行基僧正乃是文殊之化身也　國王
生浅薄之地所草創也天竺婆羅門僧正朝覲
讃國家利益衆生天平五年癸酉黙猪名野五
右壹院建立縁起者本願行基大僧正奉為鎮
聞大専殺歸依万民百姓悉成渴仰爰菩薩奏自
開發公家申請猪名荒野堺四至立勝示手
水田一百五十町施入院家永不使國郡
搆領也只毎年勅修七十二度之神事佛事為
盲瘖大痘上天皇御祈所以所院家地
獨卑賤類也若臨末世　利乗與為聾
國家令押搆領者日月星宿
轉變早魃暴風之難競起四海共已滅滿足菩
薩遺誡付屬五人弟子番々出世守護我院家
可相續付屬光信法師門跡相継宜如撿知為
立僧尼院四十九所布施屋九所舩息二所橋
深六所堀河四所垣一漑樋三所直所欲令蒼生得其利
溝流七所井平勝寶元年巳丑二月二日遷
也大僧正以天信法師化遺誡付屬光信法師門跡相継宜如撿知為
僧行福師位法師位光信修行師清浄師位法師善添持任位
法師義修行師位法師首勇修師
寺記之

天平勝寶元年己丑二月十五日雕之

粤有菩薩奉号行基　鷲嶺攝足親聽真門
馬臺現形普化卒土　迦建台寺
鑄一鳴鐘銘四至勝　初闢荒原
建立之歳　重企造成　亦鏤記文　今致鎔範　亦人投財　作没白波
蒲窄惟狹　翰躔屢廻　衆僧勠力
定知本願　遥鑒中懷　廻此嶽切　資彼聖運
金輪久轉　王燭鎮明　柳營風靜　松筭歳昌
護翼輔大守　掌詮衆機　累葉奕世　大椿譲齢
寺中安穩　恢弘私窓　恵風久業　海水遍灑
洪音所至　至三會期　境内豊饒　跨九年畜
十界無量　各驚長眠　餘薫修覃　齊膜極苦
干時嘉暦　共處日宮　一切有心　同遊月殿
別當権律師法橋上人位慶瑜　改元歳仲冬　十七日也

昆陽亘

今の山傍より摂津国へ越る街道をいふ古昆陽亘といふ昆陽亘とは摂津国の名なり

あのやれこのやれこのやれこれ　昆陽亘の駒ぶちはなせ　往因法師

摂国のこのやれかのあまはやせ　こ系さえ陳かうけて　李綱

猪名小笹

昆陽寺の東田圃の中にあり小藤を毎年正月元旦に開山初祖像の前扉の開具に或は日山藤をもむすび佐義次信琵琶をあくふ立亞しう枝葉繁茂をとあり山人の苗孫今は昆陽村にあり

猪名権現祠　其尊容分神くちふ象る　日本紀曰　雄略天皇十二年秋九月杳猪名部　真根以石為質　揮斧斲材

荒府沈

大鹿村に属す周廻三百餘畝沈の小い沈村に属す国府の北に後世国府と荒府と書きそこ一説曰山沈荒蒔村に属す府の字分荒蒔の字は荒牧なり　荒蒔實は荒牧なり

名産蓴菜　山沈の名物なり香味に異し　古今和歌

川上やあゝ婦の沈れうき蓴引根ふたて玉ぎ　妙忠

名産　白波のあゝ婦の沈れうき蓴引根ふたて玉ぎ　家隆

禮祥石

大鹿村にあり慶長元年に基大士山石上にくく天神地祇を

荒木自然塚

伊丹坂辻村の小にあり天正七年荒木摂津守村重が伊丹城に拠り殺害せらるゝ人傑なり　子息荒木自然年十四歳所に於くく

自然居士と立る塚上に古松二株あり　側に碑文を建其文面に居士の墓を立る塚上に古松二株あり　側に碑文を建其文面に居士の

自然居士と謬るあるべし　自然居士の塚は京所西九条福田寺にあり

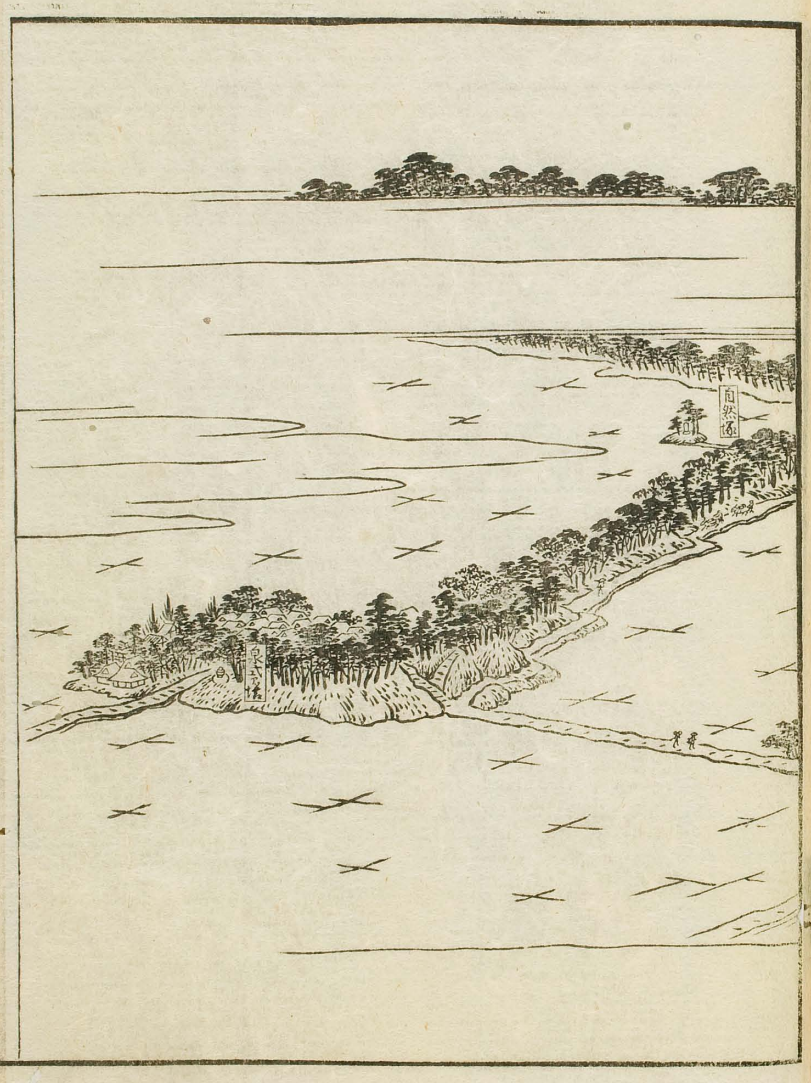
四跡は泉州自然田村にあり自然居士の弁は尚州七庫にあり

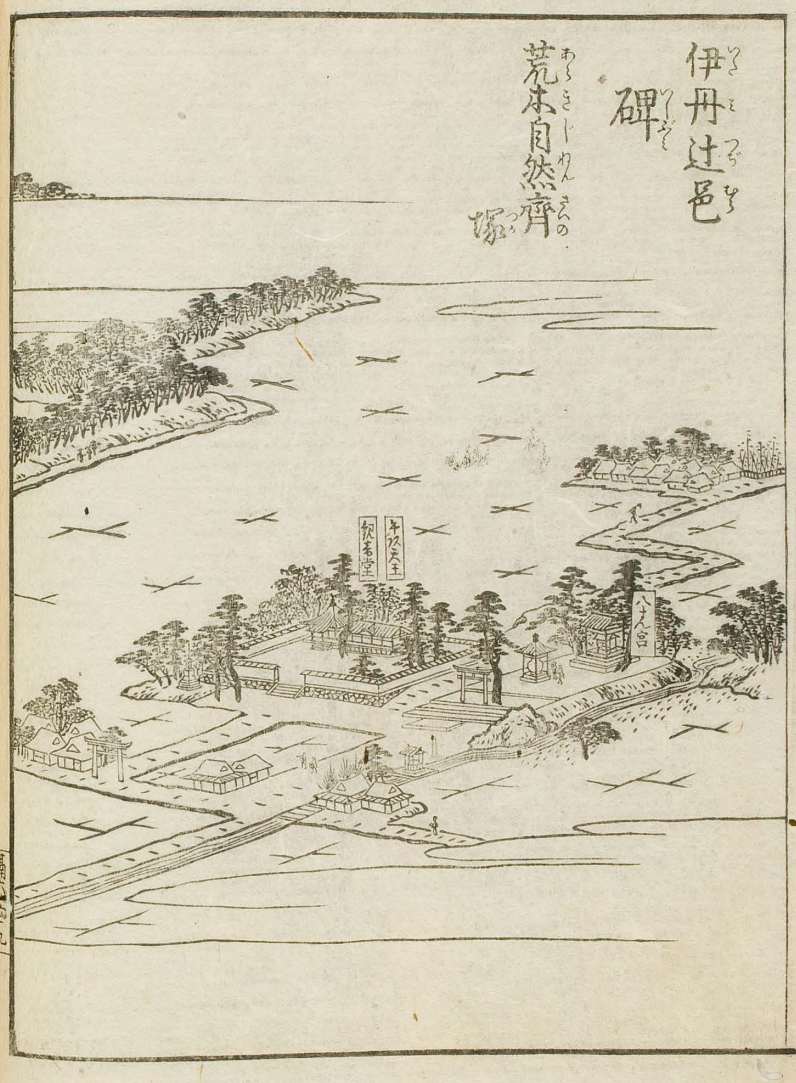
和泉式部塔

辻村にあり由緒不詳側に八幡宮のやしろあり

壺林寺旧趾

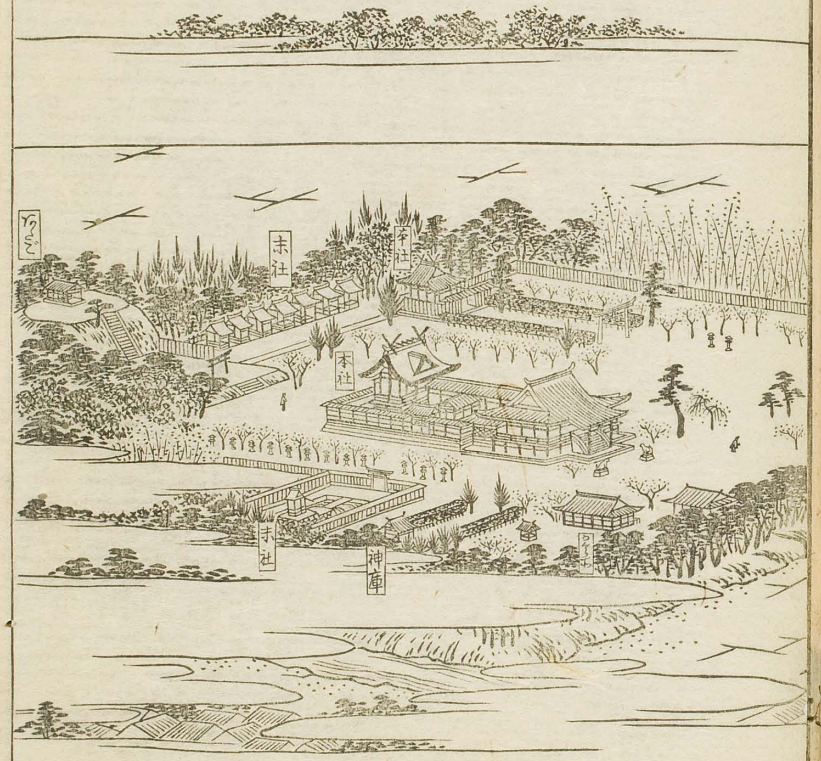
山沈の生土神なり　伊丹坂の乾にあり武庫郡鷲林寺と一双の寺院なり今古礎かくあり


自然斎


伊丹辻邑
碑
荒木自然斎
塚
牛頭天王
知恩寺
八幡宮

伊丹
野宮年頭天皇

天も光ふ
酔う
伊丹の
大灯籠
鬼貫



酒小聖賢の
譽めつく
長録の百姓と
ぶつぶーく
池田伊丹の
酒造の能
得意
ゆうべー

丹羽能登

酒小聖賢の
譽めつく
長録の百川と
吸ぐふーふー
池田伊丹の
酒造の祝
得意
ゆうべー

丹羽桃蹊

辻碑 大鹿の東辻村にあり此所攝津國中央の正當なるを故に辻村と名付 澄奥の壺碑に效く石碑なり蓋し天樣式天八寸行巳の代建 初名 年歴不詳 側に八幡宮牛頭天王祠 某師堂あり此所の生土神なり

碑銘曰 距東寺十里 距開戸七里 距須磨七里

距天王七里 距大小路七里

文字東寺以下多く磨滅して見へず東寺は京師の東寺なり開戸は摂城の境山荷開戸院なり須磨は八田部須磨里なり天王は有馬郡摂丹の境母子村の小天王嶺なり大小路は摂丹の境住吉郡境澤大小路なり或人新古今の右大將頼朝公陸奥壺碑の意なりと云ふ

おおりゝとて後伊丹くを見陽やとて猪名まわるぬ辻の碑

伊丹 町名廿八屬邑十二所邑郡 都會の地なり多し京師大坂有馬三田等の驛

名產伊丹酒 酒造の家六十餘戸あり灘の酒数多解と造りて諸國へ運送に特り禁裏調貢の御酒を老松と称して山本氏なり造るあり日富士白雪の名酒は筒井氏なり造り菊名酒は八尾氏なり造る其外家々の銘を牛燈の外卷ふ下りて神崎の渡より送り波海の船に積み多くは関東へ遣ひ尚前の領主へ近藤殿なりてむりなり村中は酒造の者更々郷中の支配を蒙ふ

紛の女や袋わるひの多ひ汁 鬼貴

野宮牛頭天王 伊丹天王町にあり古豊城峰宮と称に後世猪名堂の中なれど俗称して堂宮と云ふ多居の額牛頭天王は

近衛家熙公の筆柳葉八月廿二日 近澤十四村の生土神なり

別當金剛院 天王社南一町にあり有應山野宮寺と号ふ真言宗本尊某師仲尚社の本地なり弘法大師の俗脇士日光月光十二神將を安ふ尚社の勸請は延喜四年醍醐聖寶尊師なり初は若樂寺と号ふ其後久安六年鎮座八幡宮朝十二支の時なり尚社を重興し金剛院と改む天正年荒木村重が逆乱の時社頭伽藍共に荒廢ゆ慶長六年豊秀頼公の命ふりて長照法下再興し今の社は貞享二年近藤右衛門基照公再建宮なり

天王松 金剛院の西にあり鎮座八幡宮松法にあり

牛頭天王の神詫を蒙りし所なり

金園清水 伊丹清水町にあり巨樹金園聖宝尊師の命ふりて尚前の系を絵圖に模し 門表に掲し 四時湧減なり此地の北方を金園と 画工に用ひし清水なり

荒木攝津守村重古城 伊丹の東にあり村重は永禄年中池田伊丹の諸軍と擬る織田勢なり信長に降伏し終に信長の怒に滅さる

墨染寺 伊丹町にあり禪宗曹洞宗師仲茶里道元禪師の蒼跡 墨染も荒廢ふりて伊丹の有人加藤牛氏と云ふ者なりに遷 再興せり其後荒木村重の菩提所と成 加藤牛氏は後世上野氏と改む

本尊釋迦佛 定朝の作長二尺伏見墨染へ遷に

荒木村重塔 崇寺仏殿の西 女郎塚 村重落城の時城中女郎土蔵に蟄居しと雪に織田の軍勢焼討ち
ちてこれ村民ともに懺んて
ちてに塔を築くなり
鬼貫墓 崇寺にあり加藤弁氏の支族 故に上臈と号に元文二年
八月二日没に仙林則翁居士と墓面に銘ぞ代苗孫今小
存左に鬼貫八正風俳諧一方の豪傑 俳書獨言を著に鬼貫句選八
古紙選に。ふるいけやり集八半化房撰む生涯名句多し

ふるいけやりと秋の暮れるふしの山　鬼貫
目覚めて蚤もかをむや昆陽の池　仝
春の水山吹ながしゆるの邨　仝
咲のうふるのうふ花の散のうふ　仝

為朝八幡 伊丹の南にあり鎮西八郎 勅祭をとあり
鞍家 伊丹町民家の裏にあり 奥谷池 今伊丹町に属に
楮名篠原 伊丹の南街道の東に方三間許の笹系あり四方の平に
遷せしものやらん楮名也笹系楮名也 歴号之

後拾 あら法山井かのさ系風吹いてそよ人を忘れやとをな　大武之位
続拾 志かうるおかのさやのつり桂みーうた表まもふーかりそ　花之紀言 貫奈
新拾 みりさせまーる落ち葉かきくみそうをくあたるかのさ系　土佐門院

新後撰 あら法山岑ゆく雲に風さくあられ落るおかのさ系　法下定為
楮名野 原。山。共に古歌名所 都くに名の歴号あるべし
類聚名所云 楮は国豊岩の西郡
三代実録云 詔賜左大臣従一位源朝臣信。摂津国河邊郡為奈野為遊猟之地又同書曰貞観十五年八月勅賜摂津国河邊郡為奈野於二品行中務卿兼上野大守光孝天皇親王之初以為遊猟之地勿禁百姓樵蘇又同書曰仁和元年正月三日勅以摂津国為奈野為太政大臣狩鳥野樵蘇放牧依舊勿制

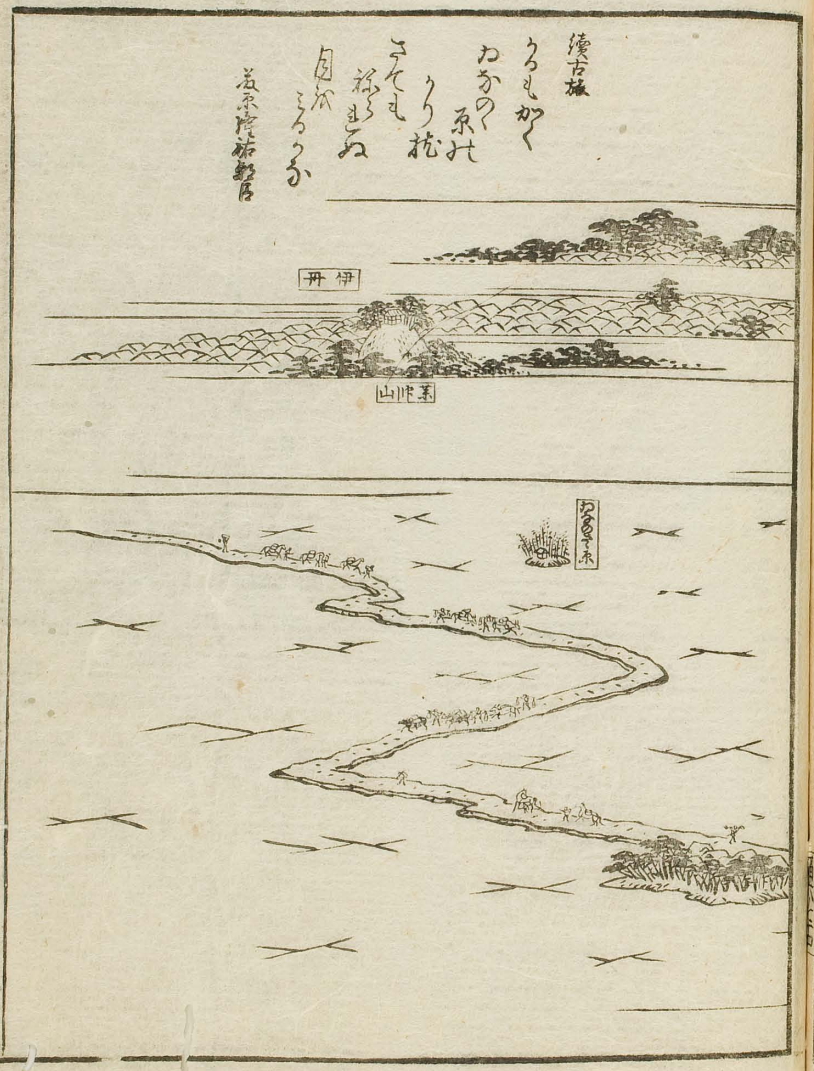
拾遺 志かうるおかのさやのつり桂みーうた表まもふーかりそ
後拾 いそうり塔岩あるいそかうるおかのさやのつり井かのさそとかうるふん　漢人
新古 志かうるおかのさ系ゆくまこと多うちぬ宮へかりて　義系有房
続古 ゆるもゆくおかのさ系のうり桂さそも稀くまれ月ふるこのか　義系法師
楮名寺 楮名寺にあり法園寺と云古伽藍親鸞聖人今古礎あり方丈間隔の石あり土人云大塔の礎なり
本尊薬師仏 創基の年度係長弘天初法通仙人大化年中に開
創し其後創基ありに止住しく諸堂荘厳とある今小堂
天正の荒木ら去火に罹く焼燼とあり
一宇に天王祠あり古に生土神とに

猪名寺
金塚
猪名笹原

漢古堂

うもかく
わかの浦に
うち拂
さてもも
なれもぬ
月かな
うらうら

為永春水旅行記



佐伯冢 猪名寺村ニあり　警冢 ハ村ニあり　食満冢 ハ村ニあり

寶冢 川西村ニあり　貫冢 ハ村ニあり

萬吉王墓 富松村ニあり由緒詳

琵琶塚 塚ハ村ニあり由緒不詳　駒馬塚 ハ村ニあり

御願冢 沢瀬塚村ニあり引墓まつりく伴道弘法の願を立ひしく古塚といふ

高師直塚 山田村ニあり高師直軍卒ニ討ものこれ後人憐んでまつりに葬る其一堂まつりく上杉畠山の

観應二年二月廿六日ニ將軍已ニ沢合體ゆく上洛しゆへ執事高師直師泰兄弟も同道世者ニ歩行く無常の岐ニ策とり折節雨ちやうふ降く教萬の故此彼ニ扣る中を歩通れ世れと人ハ見知らぬ〻と蓮の葉笠を打傾け袖ゆく顔を引隠せど中く紛ふ人ハ天下身のせゞた程ちそ表あれ將軍ニ離ぬ奉ては道ゆくも此ハのある事らあくんぞくんと危くゆくも騒ぐ馬ハ呆めて打るると上杉畠山の兵共兼て儀しる事ゆえ路の両方ニ百騎二百騎五十

騎二十騎慶々ふ扣へく待る者共をゆや執事師直よと見くられて將軍く執事くのあらひと次第ニ隔んと鷹角一揆七十餘騎會尺遁代も引く馬ハ中へ歩こみ〻ちる程ニ心あ〻ぐ押隔られて武庫川の邊を通る時ハ將軍と執事くのあらひとを隔山を阻く五十町許ニ成ふゆ哀ある哉盛衰刹那の間ニ誓ぬる事倶羅帝釋の軍ニ負て藕の穴ニ身を隠〻天人の五衰の日ニ遭て歓喜苑ニ遊ぶ〻も後もかくやうにぞ思れ侍ん人天下の執事ゆく有ける程ハ必ずのある大名ゆゑ家も其勢ゆゑ見て千鍾の禄萬戸の侯を得るゆ必く悦ひふ〻も心ハあへぬ氣色を見て薪を負て焼原を過雷ハ戴く大江を渡るゆ必く恐ぬ何況や將軍と歩雙く馬ハ進め給へをる其中へ誰の隔く先立人も有へきふ名も知ぬ田舎武士云計ある人の彩黨共ニ押隔られく馬さゞらの水ハ跳縣られく夜深泥ふまみぬれい身を知る雨の止時かく泪や袖ハぬ〻をゝん執事兄弟武庫川を渡て小堤の上を通る時

三浦八郎左衛門が中間二人走寄て此ある遁世者の頸を藏を人伝の者ぞ
其笠めげとく親車の著られる蓮葉笠を引切て拾ひ頸冠をも
て行頸のかゝ見へる紙三浦八郎左衛門哀歎や頸所の摩哉と悲く
長刀の柄取延て筒中を切て落さんと右の肩先より左の小脇まぐ
鋒さぶり小切付られてあれと云ども重て二打うちれて馬よりどうと落
ぬれば三浦馬より飛て下り貴公擬落して長刀の鋒小貫て岩上
う斬後人道師泰も右の小四郎小討とて貴公知られる

火焔皇子神廟 東栗津村にあり或曰宣化帝貴二皇子火焔王子墓と
仏皇子八川原公爲奈真人等の廟と
浮光坊幻業 若狭村にあり東本願寺の末寺紀伊の国の人
橋公架に京師東福寺の
通天橋公ちに爲むとい

西明寺 下今滿村にあり浮光坊法然上人濱州より帰洛のやうに
一夜遷ぶしゆ 岩導大師及び秋月彫公郎しうひ
あくに遷しゆ今
岩寺の本尊
穴太村にあり
白牛天王祠 山椒現世俗蓋神と称しく 蓋の疫と
竹頸ぶれと忽平愈に

武田勝頼墓 冨田村にあり 武田勝頼は甲州武田信玄の嫡孫
家紋院は勝頼の孫 天正十年武田家没落の村山州醍醐
蟹しく書育し武田左衛門と号し大坂石山本願寺に籠しく
家臣栗山と共に籠城し主君の仇を報ずと欲に弾譜の後勝頼伝と成
法号を若狭と名乗仏寺を創次其後天和二年六月十九日寂次年
百三歳今津土真宗とし京師
奥正寺門徒に属に

伊佐奥神社 上坂部村にあり延喜式出今稲荷明神と称に
森村と共に生土神と次

正玄寺 塚口村にあり京師奥正寺の懸所門徒中方或は作堂と称次
應永十六年八月奥正寺の懸所門徒
祐信という禅門住墨上人摂州紀伊郡の村山村乃門徒
興正寺抱所とに摂州末寺五十餘箇所の編頸人織田家の制状其外
天正慶長已後將家古證文數通あり

禁制

一軍勢甲乙人に乱妨狼藉之事
一伐採竹木事 付陣取之事
一相撲矢銭 兵粮之事
右條々堅令停止訖若於違背者
忽可處厳科者也仍下知如件
天正六年五月日 信長判

名木藤 寺内産木にあり奥正寺十四世護秀上人

昔松 書院の産にあり高サ九丈
樹の周六尺餘

茨木童子出生地 東富松村にあり東寺羅城門
土人の語ぶたくに
綱の甲と狐し題人

久々知の妙見祠
妙見社

近年妙見を信ずる事多く
特に久々知の妙見
祈願の妙見とて
諸人多く霊験
日々に新なれば
時り神と云
天八石

神崎の渡口へ
難波より西國の
往還ふく
ゆきてのく多く
執權言議廣まへ
はけしく
備前
播州

山川ハ
鯉多く
もんく
はえ尚ハ
ゝひ上る
餌を釣ハ
さして
釣とも
大なる鯉
釣なく
大ハらの
六瀬の初ハ
書しもかく
やうんとそ
ちひさく
尼崎
大和田
野里

久々知妙見堂　久々知村慶願寺にあり　日蓮宗

正德年中再興す

本尊妙見菩薩　倒系九月十日寺號を賜ふ　當村の勧請なり　當村の生土神なり

開祖　日蓮上人　慶願寺本堂に安置　足利學氏公の記文あり　中に徳川氏の祖先の因縁あり　文政年中

潮江　潮江村にあり　日毎に潮を汲しめ都へ運ぶ

吉備津祠　錦樂寺村にあり　原吉備公の創　錦樂寺の四隣を領す

神崎川　又神崎とも書　淀川の支流　神崎川と云ふ　田川三國川と云ふ

神崎渡口　神崎村にあり　大坂より西國海道なり　兵庫より

神崎の松原　今の神崎をいふ　諸神社の多郡　神崎の松原に餘り　軍議　皇后筑紫に出御の日

遊女宮城墓　神崎の小町　町新田團の中にあり　村民

法國のかみはのとうの法師ぬれ衣ひたいむ　平七こと　佐安宮殿

神崎のわらべも見へぬ波もなし　神崎の松原　今の神崎をいふ　諸神社の多郡　神崎の松原に餘り　軍議　皇后筑紫に出御の日

遊女宮城墓　神崎の小町　町新田團の中にあり　村民

法國のかみはのとうの法師ぬれ衣ひたいむ　平七こと　佐安宮殿

神崎川　神崎川と云ふ　田川三國川と云ふ

左遷の人　左遷の人　船に乗せられ　天王寺の別當慈鎮和尚　船に纜を繋ぎ　上人の御船に纜を繋ぎ

上人　上人　義経　平家　平家　上人　上人　義経　平家　平家　上人　上人　義経　平家　平家

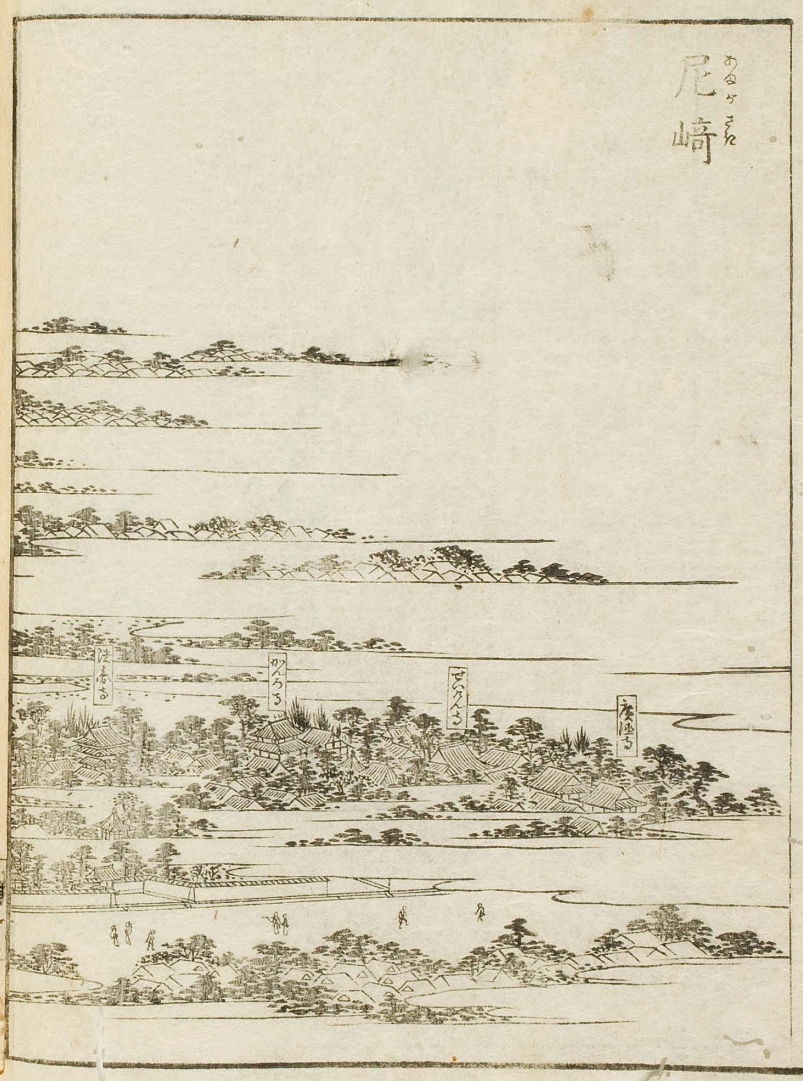
めぐりて勧る法の聲高く同者は念仏して宮城と共に人の
往君渡い神の海とあり諸共に合掌して導た上人と云も敢て五人
一度に河波に水屋へ飛入空しくなる人々驚た樽桶を引く捜せ
ども其甲斐もなく粥散を求めるく山川峯に一ッ所に葬て上人諸共
引導の念仏しぬ元是遊女塚と呼ぶをの好うし
後世尼崎如来院よりあた墓碑を建く表に六字の名號裏に往女
人の名と鐫るむし神場川に御上橋といへり遊女山川に身を
沈めるる屍を神場川中より流上ケしより橋の名とあり此又山岡郷の
少人附の人由来橋と呼ぶをの人とも
長洲 尼崎の東北にあり長洲浦とも
日の名前
日本紀云 渭崎 令 殺 渟 中 天皇 貝 惡 解除 善 解除 而 出 於 長
洲
つの神の海とあるとは国のかをを流れはりと けるを 為家
拾遺
意徒ぬ物かしたを来もかくを海んいつを長洲の浜辺ゆるくん 後人
玉本
孫子をあわかくをたの沖ふかをを浜れかをを為名ん 兼盛
日
万代とつをふ沖はるを好をを人に長洲の浜ふ好をつるくん 相模

長洲天神 長洲ふあり菅神祝第、ををくの伊附ふ伊船ををくれ自画の像と宿
の長ふ賜ふ由れ伝来て生土神をを毎年二月廿五日遠近群集
浦初岩 尼崎の南浜をつ今ふ民家つくりて居已と呼ふ人居已のつ場くをふ
潮と汲を忽真水とあり今も此磯辺ふ出く念仏をとをへく水面ふ表と圖しく
其中と汲を真水と とつ又居已八幡宮又尼崎の頂をを初岩の別荘ふ
後撰
あか意しりてやみまし法国の今もありてくれ初岩 西仙法師
続拾
見るまくふ波ちるるふ成ふるるめは遠た浦のを川岩 常盤井入道
日 太政大臣
ふる海の浦の初岩おかしくいりてる足まし杖の数れ目 平清時
新後古
入日をを志ほ波の波れををれ為ふをふちを浦の初岩 秩名陸奥通
新千 内大臣
りてまををををををれ著ふる奥は波まの浦のを川しぬ 津守国基
玉本
小数ふ中ををををのををしぬりををを宵ぬの月れをふ明く 範定
大物浜宮 大物町ふあり此所の生土神をを
例年九月毎日
東神 中央神 祥瑞 瑞令 左右 儀 律 瑞令 瑞 律 瑞令の二度 成紀 伊
社傳云 正治年中 正 治 盛 藝 州 叢 瑞 系 治の附 此 浦ふ於く
遥風 船と覆 さん 後 其附 叢 瑞 明神 成 祈 を 夕 人 を 急 ち 風 波
辞 をぬ 故 ふ をくに 勧 請し 東 を 名 く 拾 社 ふ 天照 皆 神 妻 日
住吉 天 瑞宮 道 徳 神
故 ふ 荒神 と 東 伊

七間の堤
東の本堤
安倍川外
柱書れど
とどまらず
大なる東海
出来て風味
うしなれ
風土の歩之
七間つゝ
本社
天満宮
天満宮

四りや
浦の
初しぬ
やとくさに
古聲
尼崎
大物社
添のうしろ
つれ名あとおしみ
仏所ゆ
天満宮

作城


あまがさき
尼崎

雁嶋 大物の一名なり〻〻 文本集抄は一説豊後
万葉 和銅四年の三宮人雁嶋を松原と見て孃子屍悲歌作

妹の名はちよた流んかりしまの小まつかうれはのこる白浪 中務親王
後拾遺

尋ぬるは誰はしか風をそ〻しかりしまやこまつかうれはのこる白浪
玉葉 右大臣

日本紀云 安閑天皇二年秋九月別勅大連曰宜放牛於難波大隅嶋與媛嶋松原葦名於後攝津風土記云比賣嶋松原者昔輕嶋豐阿佐羅宮御宇天皇之世新羅國有女神道去其夫未往筑紫國岐伊比賣嶋乃日此嶋者稍不遠若居此嶋男神尋來乃迁棲此嶋故取本所住之地名以為嶋號

大物浦 尼崎城下ニ大物町大物浜

東鑑云 文治元年十二月十五日豫州出来相尋之豫州出都西海之曉被相伴大物濱

判官殿旋宿蹟 大物橋爪ニあり今ハ公役免除の地ニ武藏坊弁慶借證文ハ此地の仁本氏ニ傳来ス

東鑑云 元暦二年十一月六日行家義經於大物濱乘船剋疾風俄起而逆浪覆船之間慮外止渡海之儀伴頭介散相從豫州之輩纔四人所謂伊豆衛門尉堀弥太郎武藏坊辨慶并妾女静一人也今夜一宿于天王寺遣自此所逐電今日可尋進件両人之旨被下院宣於諸國云云

尼崎城 旧名大覺寺城と云 文永年中細川尹賢居城 元亀年中荒木摂津守村重修補 滅亡の後池田信輝ニ属 元和之年戸田氏鉄改築 寛永年中ニ交易の者人多 南ハ船宿名川 西ハ郡川 東ハ小船の泊ハ西ハ播磨ニ通ル 乙陽道の喉口なり

尼嵜屋松 大物浦ニ所在 元孫あり 又南浜ニ逆櫓松の古跡あり 平家物語ニ波ニ漂ふ櫓ハ是なり 又人丸塚ハ是なり

本興寺 尼崎寺町ニあり 日蓮宗 勝劣流 塔頭八院
本山ハ京本能寺ニ相同

開基日隆上人 姓ハ源氏 父ハ桃井の苗裔 清和帝の後胤 十八歳にして出家 初メハ慶林坊日立と號 後ニ改日隆と書 本門八品の奥旨ハ興 両本山ハ創 末流の流儀繁茂 盡未来際ニ至ル

廣德寺 日蓮ニあり 禅宗 隨喜山と号 末寺 大德寺ニ属

開基言外和尚 大德寺第二代 本願ハ花岳宗榮禪定尼 文正十年 開基 当寺乃至 栖賢寺と俱ニ諸將と賜 祝賀の響應あり 所

法園寺 日蓮ニあり 廻向山と号 浄土宗 宗師和恩院ニ属 營譽上人中興 勅願あり 又陸奥の佐々成政の墓碑あり 天正十六年五月造立

蒹葭

芦刈嶋(あしかりしま) 此所を芦かりしまといふむかし此浦に日下(くさか)の左衛門といふ者あり家甚貧く遂に夫婦あはぬ別れなしく女ハ都に出て宮つかへし男ハ此嶋の蘆を刈て日毎に市に沽て世のいとなみとなし其芦を刈るより刈嶋といふ又夫婦再び會し所なりと待るかりしまともいふ今ハ只松嶋と書之

大和物語云

津の国難波わたりに家して住人ありけりあひ志りて年ころありけり女も
をとこもいやしけにはあらさりけれと年ころわたらひなともいとわろく
家もこほれつかふ人なともとくある所にいきわかれて住けるほとに
さすかに下すにもあらねは人にやとはれつかはれもせすいとわひしかりけるまゝに
おもひわひてふたりいひけるやうなほいとかうわひしうてはえあるましくて
のこゝに居るを見捨ていつちもいつちもえいくまし女もをとこもすてては
いつちかゆかんといふをいひわつらふまゝにをとこおのれハとてもかくても経なん女の
かくわかきほとにかくてあるなんいとおしき京にのほりて宮つかへをもせよ
よろしきやうにもならは我をもとへおのれも人のことくもならはかならすとはん
なとなく／＼いひちきりてたよりの人につきて女ハ京にきにけり

いつこともなくてきたれはこのつきてこし人のもとにゐていとあはれと思ひ
やりてまへに荻薄いとおほかる所になん有ける風なと吹にかの
津の国を思ひやりていかてあらんとかなしくてよみける
ひとりしていかにせましとわひつれはそよともまへの荻そこたふる
となんひとりこちけるさてとかく女めくりてある人のやんことなき所に宮
つかへしけりかくて宮つかへしありくほとにさうそくきよけにしこともなく
ありけれはいときよけにかほかたちもなりにけりかゝれと津の国をかた
時もわすれすいとあはれと思ひやりけりたよりの人に文とつけてやりけれ
はさる人もきこえすといとはかなくいひつゝくるわかむつましうしる
人もなかりけれは心ともえやらすいとおほつかなくいかゝあらんとのみ
思ひわたりけるほとに此宮つかへする所のきたのかたうせ給ひてこれ
かれあるをめしつかひたまへるなかに此人を思ひつきてありさて
めになりにけりおのれ事もなくてめてたくてゐたるにたゝ人しれぬ事

さらへなんありなるにはみしきめくむかうてもあらんよくてやあらん
いかゞわか身も得ましとさまへと思ひくらしてさせんとおもひてそのかたと
きこてうくそあるたよりにもしそあれと思ひてはしめありけるかなかなにや
あるさとに見えけれを男にいはせたるより津の国といふ所のいとおかしけなるかに
いはそ難波にすみしそこまうらんといひけれはいとよ(?)車まつれもとろ
ともみといひたれそこにくなのかしおかそおかれ来るまうらんといひて
いそちていひけり難波にけふくして(?)ゆりなんとはる時に此わたりにてなんべき
すなんあるとさくいまはこしとかれはまたれといひつゝこのあるはを座らせけく
家のありしところをとふに家もなし人もなしいつちへゆきけんやうかわりうう
思ひたりつる顔なき人くりもへはきこれともむつかしとすさましかく
まへなさはへまかてもなしいひとかくれたるほとをそてからむる人にとも此
人目にかれぬへしとそ御車かうしてんとていたまつしとて従に芦荷ゐる
たとこのとはくのうちのはなくする此車のまへよりいきたる見かゝりたるゐるに

その人かほ(?)いとくもあらぬはいとしれたる顔なれどよくしたるに似たりこれをみて
よく見まほしさに此芦もちたる男のことよそよ芦かはんといはせたりけり
されはよりわたも此かも猪へとおほえたれと思ひつゝわのちかいかなれはよひ
てたは車のうちちかくあゆませよ見むかといひて此男の顔をよく
見るに其れなりきりいと哀にのいかなるわたるひてよになる人いかなるらん
と思ひくかなしたれともみ人いはなかなるこのよなかはと思はんおりひとる
かくてこのおとこの男にものかたとへはかりてとおほくあしのあたひもとらせよ
とおひけれそほくろありのにかみのものおほくとらせんなとあるへくおもひたれと
あやしくもあはれみてかくものかなとせんとおもひ間に此かくれのもとゞ
此わたるより此男ものを我か女に似たりやといふにそなへて見るなる
顔も声もそれなりけると思ふにもおもひあわせてまたさにのことゝいふもの
ありけるなおもひそめるにことはしらかくてあしもうちはてくちしてあけ
になりしといへる家なれと人の家にふけ入てかくれしたりへに

かぐまりたう寺これ車ゐう殿このたとこさろひくぬくこいひろれを
ちその人ゑ武わぐちくりとめさ元ろう人そ殿る家ふあん侍り
ろるとこ人を世たとふかくたを不せ事めうくゐにありかにのうちを勢
ゆ人屋家ふわくに為とそ人殿せんとにれたさ家たりのあうとて附
ふ視とこひく姫こうくそれふ
若殿くてあ一ろろとたゆるもいとく雑波のうくそ侍う賀
とかくく対しとそれ武帝車ふくくまつとこいおれいあやしとおりひて
りてきくなるあけくころ殿しきゆ為ふ似ばよくと長殿たけかさく
ろしたいくきうくんきくにくるきふきうろる衣ぬさくに侍くみゆ
姫こかとかさぐしく屋うろる扇ゐんの人ろるのちふいく殿うろ不
きんきくに

あくしとそそそ人のようれゆ殿ふら雑波のうくに侍うた

栖賢寺 日蔵ふあり禅院十刹の其一ゑ秀吉公山傍合戦の附
傍利ありく諸度と響しゆ所ゑ

櫻掛松 当寺ふあり秀吉公山松ふ掛と名けられく
山傍合戦の軍合ふ定めゆ古蹟ゑ

海岸寺 日蔵ふあり当竜山と称に浦宗師金蓮寺ふ属に正慶年中
西一比丘尼開創明徳年中臨阿弥中興に

泰武文古墳 当寺ふ
あり

大賢寺 日蔵ふあり月峯山と号に真言宗初い紀勢郡月峯ふあり末巻ふ
天文中興琳海上人嘉暦年中ふ遷ス

本尊千手観音 日羅の作長三尺半当寺の什宝ふ平相国清盛 高倉院ふ
皇子除誕の祈願文正和二年常盤平殿祈文延文五年に
銀鍍延入文細川清氏書簡 将軍義詮の私書二首等ふ諸名士の施願文等あり
源義則旅館の所ゑ あくあくあと旅ス又大納言行忠卿の奇あり

あ一昔のあやれたのやのかりあるる義れふかる旅れあるらん 義則

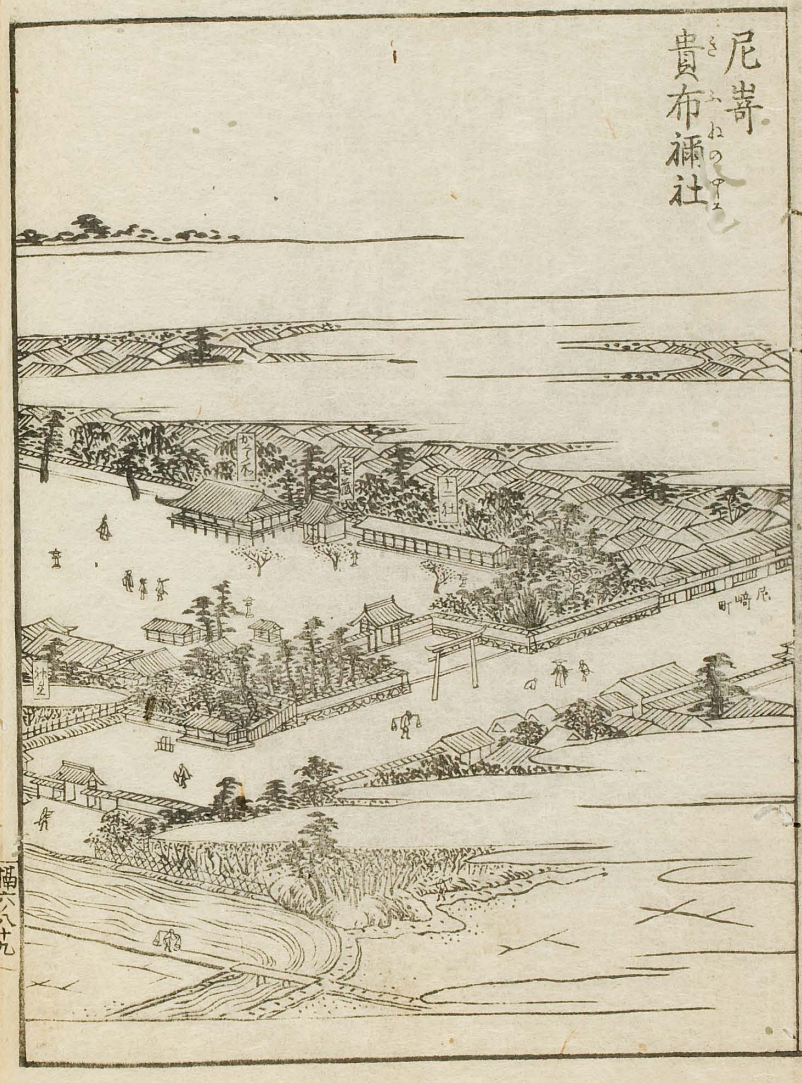
都ふくやひ出くや志のそ海一玉江の浦乃立ふ入りあそ 行忠

十王堂 当寺ふあり海賊有く多々の宝を盗ゑ其業因ふよりて我ゑ貴に海ふ入く
天人ゑの賦受心しくあに一宇ふ建く十王の十躰を安ス

如来院 日蔵ふあり瑞光山遍照寺と号に浄土宗
国光天師廿五壇場の其一あり

本尊阿弥陀仏 法然上人の作長三尺又寺当院初メハ那内神崎の地に
ありく繋延堂と称し天正年中傍正刃基の開基ゑ
法然上人神傍ふ海船しゆ入より旧蹟とあり永禄年中饒響上人浄土宗
ふ改ゑ 北地ふ移ス什宝ふ神傍の花女礼剃髪あり又虹梁の彫物
龍の形ゑ左基五帝の作とく奇嘆ゑく又当院ふ名月姫の父母三ッ松
刑ア有門国基支柱の石塔あり

横六八八


尼嵜
貴布禰社
尼崎町

彩女今
飛うける
あはの
いそ家
ゑうの
ゝ
秋は
しのふの
宮はしの
けり
三流理平

耳塚寺 旧所は某山猟者院といふ津古宗系師知恩院に属す
開基は源永上人と什宝は法然上人筆あり

貴布禰神祠 尼崎西町にあり此地の生土神なり
例祭六月二十日
因幡国女神 祖神 別雷神の三座公記に旧地は明かなり
元正帝の神宇勅建あり 系師を祀る相同じ末社十二座公記
神の火 文武帝の時々火海上に現る 俗云亨禄年中正六位藤右近衛府生秦
武文は神なり 戦死せし亡魂といふ 波海の船頭あれば必ず者多し
祝津宮古蹟 難波村にあり 仁徳天皇難波宮の跡といふ 欽明帝の宮の古蹟なり今は備宮あり
日本紀曰
欽明天皇元年九月幸難波祝津宮
古梅 富村農家にあり 難波梅と賞す
名月塔 尾浜村大日堂にあり 寺は名月姫の菩提所なり 名月姫の父三ッ松郷主の古墳あり
蓮川 上は浜田七ッ松より流れ下は尾崎の西
来新田に至りて海に入
難波灘 尾崎大物浦より尾浜西宮を出て五百石御田御影大石脇浜
神戸 鳴尾 西宮と都て難波灘といふ
主人
其ゆかりの月にくゝ引網のあらはるゝ難の浦人 行家

摂津名所圖會巻之六 終

此摂津名所圖會は都て全部十巻なり魁して四巻を出だし六巻と都合〆十冊なり全部なり

MWUL